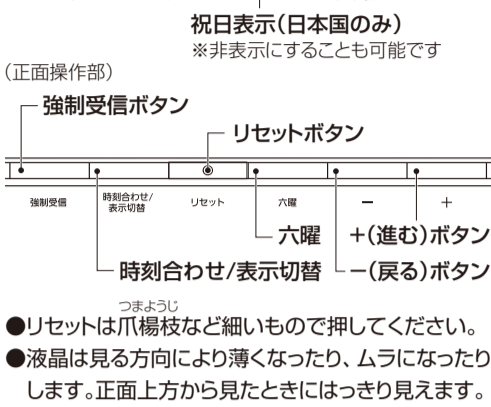
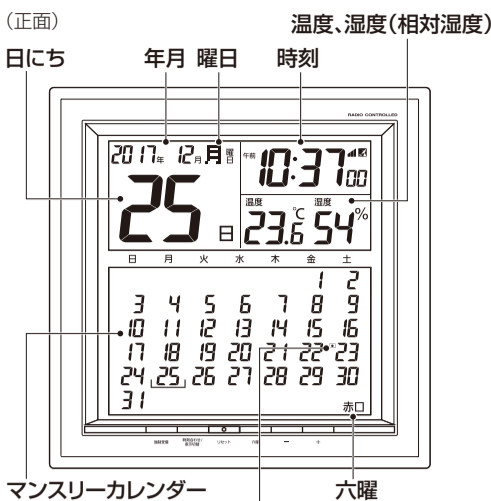




## ご使用方法（電池を入れて標準電波を受信して日時を合わせる）

◎図は操作説明用ですので実際の商品と異なることがあります。



### 電池の入れかた

- ①電池ふたを開ける。
- ②電池ホルダーの⊕⊖表示に合わせて、単3形乾電池を2個入れる。
- ③電池は⊖の位置に入れてから横に移動させる。
- ④電池ふたを閉じる。

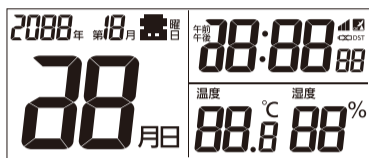
**注意** 電池の⊕⊖を逆に入れると、電池の液漏れ・発熱・破裂の原因となります。

- 強制受信** すぐに受信を開始させたいときに押す  
時刻合わせ/表示切替 【押してすぐ離す】  
月週番号表示と月日表示の切り替え  
[2秒以上の長押し]  
手動で日時を合わせる  
12/24h切替、祝日表示切替設定
- リセット** 電池を入れた直後に押す  
六 六曜の確認  
「-」(戻る) 手動で日時を合わせるときに使用  
「+」(進む)

## 電波を受信して日時を合わせる

### 【受信の流れと表示】

（リセットを押した直後）



※電源投入直後およびリセットを押した直後は、2016年1月1日、午前12:00に設定されます。

### 受信マークの変化

電波の状態により変化します。（電波サーチ機能）

受信できない → 受信しやすい



（受信終了）  
最長20分後



（受信に成功したときの表示例）

※受信に成功しても、ノイズにより誤った日時を表示することがあります。

※受信に失敗したときに表示されている日時は正しくありません。

標準電波を利用しないで、手動で日時を合わせる際には**手動での時刻合わせ**をお読みください。

電波の受信しやすい窓際などでご使用ください。

- ①電池ホルダーの⊕⊖表示に合わせて電池を入れる
- ②リセットを楊枝などで押すと受信マークが点滅し受信を開始します
- ③20分経過したら受信結果を確認する

受信に要する時間は、最長で約20分です。受信マークが点灯していたら受信成功です。  
▶【受信の流れと表示】参照

◎受信中はボタンやスイッチにふれないでください。

### アドバイス

テレビ、蛍光灯などの家電製品やパソコンなどのOA機器からのノイズにより、受信できなかったり、誤った日時を表示することがあります。場所を変えてリセットを押して再度受信を試みてください。

### チェック!

1～2分経過しても受信マークが①または②の受信状態が続く場合は受信できません。場所を変えてリセットを押して再度受信を開始させてください。

## 電波を受信できない場合

### ●朝までそのまましておく

一般的に、夜間は電波状態が良くなるので、手動で時刻合わせをして一晩そのままにしておくと受信できる可能性が高くなります。

### ●場所を変える／受信をやり直す

電波の受信しやすい窓ぎわで取扱説明書の日本地図を参考に、時計の正面または裏面に電波の送信所に、なるべく向くようにして、リセットを押して再度受信を行ってください。

### ●時刻を合わせて使用する

ベランダなどの屋外で電波の受信に成功させるか、手動で日時を合わせて使用してください。

※電波が受信できないときの時間精度は、クオーツ精度になります。

## 手動での時刻合わせ …… 電波が受信できないときや任意の日時に合わせる時

操作例に従って、西暦年、月、日、時刻(時、分、秒)の順に設定してください。

### 年月日、時刻(時、分、秒)でのボタン操作

点滅している数値を+または-で合わせてから**時刻合わせ/表示切替**を押すと数値を確定して次に進みます。

ボタン操作 押してすぐ離す 押し続ける  
+(進む) 1つ進む 早送り  
-(戻る) 1つ戻る 早戻し

### ◆操作例. 2017年12月25日 午前10:37に合わせる



①時刻合わせ/表示切替を西暦年が点滅するまで約2秒間押し続ける。  
※西暦年が点滅すると、月日表示に切り替わります。

②年を+または-を押して合わせて、時刻合わせ/表示切替を押す。  
③月を+または-を押して合わせて、時刻合わせ/表示切替を押す。  
④日を+または-を押して合わせて、時刻合わせ/表示切替を押す。

⑤時を+または-を押して合わせて、時刻合わせ/表示切替を押す。  
⑥分を+または-を押して合わせて、時刻合わせ/表示切替を押す。  
⑦秒を+または-を押して合わせて、時刻合わせ/表示切替を押す。

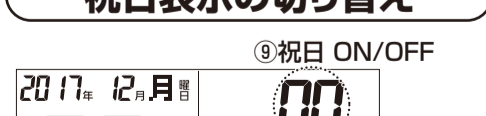
時刻の設定は以上ですが、**時間表示形式の切り替え** **祝日表示の切り替え** を続けて設定してください。

### 時間表示形式の切り替え



⑧12H(12時間表示)/24H(24時間表示)を+または-を押して合わせて、時刻合わせ/表示切替を押す。

### 祝日表示の切り替え

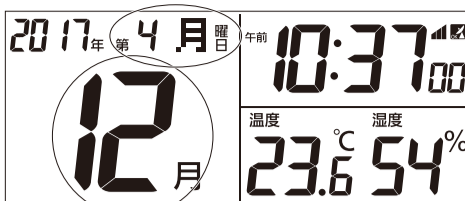


⑨祝日表示のON/OFFを+または-を押して合わせて、時刻合わせ/表示切替を押す。  
※祝日は日本国のみで表示で、2016年時点での祝日法に準拠しています

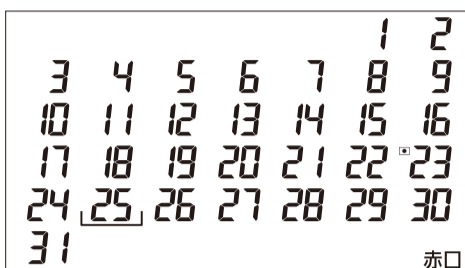
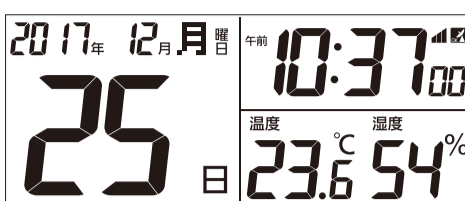
※ **時間表示形式の切り替え** **祝日表示の切り替え** を単独で設定する場合は①から順番で表示を切り替えて、設定してください。

## カレンダーの使いかた

(通常表示:月週番号メイン)



(通常表示:日にちメイン)



### ■月週番号表示(第〇〇曜日)

表示月の週番号を表示します。

- 時刻合わせ/表示切替ボタンを押してすぐ離すと、月週番号表示(第〇〇曜日)と日にちメイン表示を切り替えることができます。
- ※電波受信中は切り替え操作はできません。

### ■マンスリー表示(ひと月分のカレンダー)

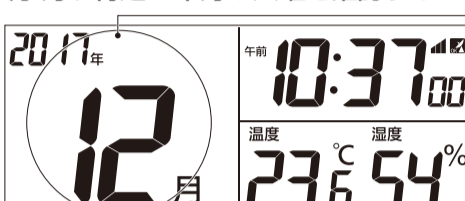
通常表示のときに、+または-を押すと他の月を参照することができます。

- 六曜ボタンを2秒以上押し続けると、通常表示に戻ります。
- 約30秒間ボタン操作を中断すると、通常表示に戻ります。
- カレンダーは2000～2099年まで対応。
- ※電波受信中にカレンダーを操作すると受信を中止します。
- 他の月に切り替えても六曜と●(日本の祝日)は表示されます。

**六曜表示の切り替え** **祝日表示の切り替え** 参照

## 六曜表示の切り替え

表示月や特定の年月の六曜を確認することができます



### ◎六曜について

旧暦の月と日から導きだされ、大安、赤口、先勝、友引、先負、仏滅の6種類があります。

※六曜は慣習として使われていますが、公的な機関が定めたものではありません。

## 静電気による誤作動について

静電気の影響により、正常に機能しなくなることがあります。このようなときは**強制受信**を押してください。

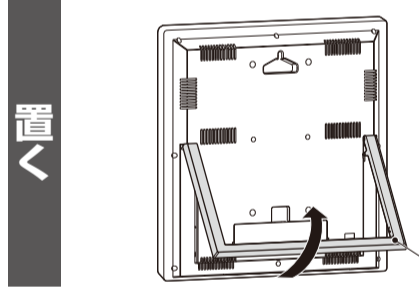
## 用途について

- この製品は医療や業務用として開発したものではありません。
- 本製品は、温度、湿度の証明など商取引に使用することはできません。

## 時計の設置

**注意** 一般的な家庭やオフィスなどの室内用です。粉じんが多い所、水がかかる所、結露する所では使用しないでください。故障や誤作動の原因になります。

- 屋外、温室、サウナ、プール、温泉、浴室、冷蔵庫、車の中では使用しないでください。
- 直射日光が当たる場所や冷暖房器具、加湿器、除湿器などの近くを避けてください。
- 空気がよく循環する場所に設置してください。
- ※設置する高さによっても温度、湿度が変わります。一般的な室内の低い位置では温度は低く、湿度は高くなります。
- ※湿度は「空気のかたまり」として移動するため、同じ室内でも風通しの良い所と悪い所では違いがでます。



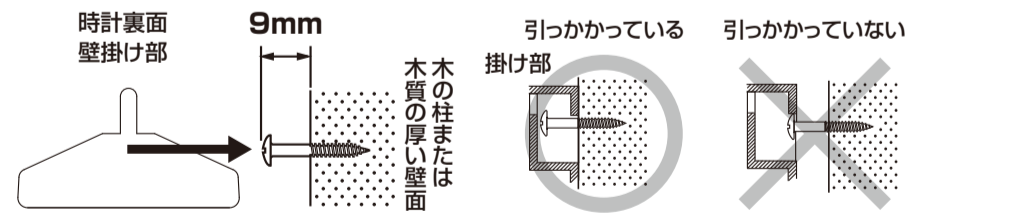
置いてご使用になるときはスタンドを図のように引き起こしてください。  
※無理な力を加えるとスタンドが外れたり、破損することがあります。  
※転倒や落下を防ぐために、水平で振動の少ない安定した所に設置してください。

## 注意 掛けかたが不適切な場合、時計が落下する危険があります。

- 掛けるときは、上下、左右に軽く動かして、壁掛け穴に掛け具(木ねじ)がしっかり掛かっていることを確認してください。
- 垂直に掛けてください。傾くと掛け具から外れるおそれがあります。
- ドアを開閉するときの振動が伝わらないところに設置してください。
- 市販の掛け具を使用するときは、壁掛け穴にしっかり掛かるものを選んでください。
- スタンドは閉じてください。

## 木の柱または木質の厚い壁面の場合

- 付属の木ねじが使用できる場所は、木の柱または木質の厚い壁面です。
- 木ねじは下図のとおり、壁面にしっかり木ねじ込んで固定してください。



## 石こうボードの壁面の場合

- 付属の取付金具を使用できる場所は、石こうボードの壁面です。
- 取付金具は下図の通り、付属のクギ4本でしっかり固定してください。

### 取り付け方 取付金具 タイプA

金具を水平にして①②の順序でクギを打つ。



### 取付金具 タイプB

クギ 取付金具の穴に対して、垂直に押し込む



- 壁の材質、取り付け方を確認の上ご使用ください。
- 付属する取付金具のタイプに応じた取り付けをしてください。
- 取付金具は水平に取り付けてください。傾けて取り付けると時計が傾きます。
- クギは取付金具の穴に対して、垂直に押し込んでください。
- 取付金具には、3.5kg以上のものは掛けないでください。

## その他の壁面の場合

- 石こうボード、コンクリートなどの壁面に掛ける場合は、壁の材質・構造と時計の重量に合った、市販の掛け具をご使用ください。その際、粘着式や吸盤式は時計が落下する危険がありますので、使用しないでください。